

プログラム名	現代世界建築を展望するー5	認定CPD	2単位
開催日	2020年11月6日（金） 18：10～20：10		
開催場所	ウィンクあいち 1101中会議室（名古屋市市中村区名駅4丁目4-38）		
講師	建築ジャーナリスト 淵上正幸氏		
担当理事	企画委員会 代表理事 西井信幸	その他	
参加者	NSK会員及びその所属27名、一般24名 計51名 二次会 24名（NSK関係14名、一般8名、スポンサー2名） スポンサー企業8名、合計59名（会場定員50名）		
備考	協賛東芝エレベータ㈱、㈱坪井利三郎商店 後援（公社）愛知建築士会、（公社）愛知県建築士事務所協会、 （公社）日本建築家協会 東海支部愛知地域会		

今年は新型コロナウイルスの影響で会場50名・リモート50名の企画で講演会を開催した。最終的な人数は会場はスポンサー含め59名（スポンサーを除くと51名）、リモート25名となった。前回と同じく遠くは兵庫県明石市からの参加もあった。また二次会是有志によるものであったが24名の参加となり、会場参加者約42%の出席率で嬉しい悲鳴となった。解散は2時半と遅くまで淵上氏を囲んで和気あいあいと大盛り上がりの会となった。

講演は世界最先端の建築の紹介として、建築家順に1.ピャルケ・インゲルス（アメリカ）、2.ヴォ・チョン・ギア（ベトナム）、3.ジャン・ポール・ヴィギュール（フランス）、4.ALAアーキテクト（フィンランド）、5.ジーン・ギャング（アメリカ）、6.オーレ・シェーレン（ドイツ）、7.OMA・重松象平（アメリカ）、8.ザハ・ハディド（イギリス）、9.メカノー（オランダ）、10.スティーヴン・ホール（アメリカ）の10者であった。その中で特に印象に残ったのが、4.ALAアーキテクトのヘルシンキにあるヘルシンキ州立図書館である。特に木造の庇のキャピットとその上に建つ丘の上の図書館が印象的であった。また、全体的に超高層のデザインが多かったのが今回の建築の特徴であった。6.オーレ・シェーレンのバンコクに建つマナツ・タワの部分的に欠けているファサードや、5.ジーン・ギャングのアクアタワーでテラスを曲面状にして全体を柔らかな形にしているファサードである。このテラスの曲面のイメージは日本でもほかの超高層ビルのファサードに影響を与えているといえよう。それにしても海外の建築家が日本で活躍できるチャンスは少ないが、今最も世界で売れっ子といえる1.ピャルケ・インゲルスがトヨタと組んで富士山の裾野に2,000人のスマートシティをデザインし、具体的に建設プログラムに入っていることは興味深い。

また、今回からスポンサーが㈱リクシル様から東芝エレベータ㈱様、㈱坪井利三郎商店様へと新たに変更となった。今回を含め、5年継続していけたらと思っている。

そしてリモートにおいても今回初めての試みであったが、リハーサルを2回行うなど、準備等が大変な印象を受けた。リモート対応の機器は全て揃えたので今後の対応に期待したい。

（担当の成田副代表、ご苦労様でした）

【会場風景】

